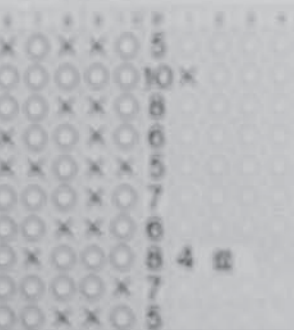


BUDŌ NEWS

今月のニュース



優勝＝才川義昭選手（大分）

才川義昭が初優勝を飾る

女子は齋藤往子が5年ぶり4度目V



優勝＝才川義昭錬士六段

天皇盃第63回全日本男子弓道選手権大会・皇后盃第45回全日本女子弓道選手権大会は9月19～23日、東京・代々木の全日本弓道連盟中央道場で行われた。

大会には全国の各都道府県から選出された男子110名、女子104名が出場して鎬を削った。

男子は才川義昭錬士六段（大分）が10射皆中で初優勝を決めた。女子は齋藤往子教士七段（東京）が5年ぶり4度目の優勝を果たした。

今大会より、地区予選から本大会に出場する選手の枠が変更された。従来は前年度優勝者、前年度最高得点賞受賞者、都道府県連盟から選出された選手（各1名、北海道6名、東京3名）の他に、ブロック（地方単位）選出もあったが、今回から都道府県連盟選出の選手を各2名（北海道と東京は6名）とし、ブロック選出を廃止した。よって、80名前後だった出場者数も20名ほど増え、100名を超えた。

期間中、生憎の空模様が続ぎ、時折、降雨にも見舞われたが、多くの弓道ファンが詰めかけ、連日観客席は満席だった。

※試合形式

男女とも予選は一手（2射）2回を採点制で行い、2中以上の得点上位20名が決勝進出。決勝は一手5回の的中制で行われた。同中の場合は、優勝決定は射詰競射で、それ以外は遠近競射で順位を決定する。

■男子（19～21日）

19日に参拝と開会式、矢渡が行われ、翌20日に予選が行われた。

最高得点賞を2年連続受賞中の鈴木康弘（群馬）は1回目に760点を獲得し、トップで折り返す。2回目、鈴木は乙矢を外して753点。計1513点としたが、同立で前年度優勝の細川孝夫（福井）が1回目756点、2回目763点の計1519点を記録し、初の最高得点賞を獲得した。

21日に行われた決勝では4回目を終えて、皆中が細川、才川義昭（大分）の2名。7中で高橋文彦（福島）、6中で安倍智（大分）、山崎正臣（高知）、川名修徳（宮崎）、小原裕幸（島根）、土佐正明（千葉）が追う展開となった。

最終回、細川が2本詰めて10射皆中を決めると大きな拍手がわいた。細川は準優勝以上が確定し、後の立

の結果を待った。残る皆中者の才川は、びくを抑えながらの行射でなんとか一手を的に入れ、こちらも10射皆中とした。

3～5位は8中の高橋、山崎、小原、土佐の4名による遠近競射の結果、3位土佐、4位山崎、5位小原に決まった。

優勝決定は射詰競射に持ち越された。1本目、先に引いた細川はわずかに的の後ろに外す。中れば優勝の一本が回ってきた才川は、馬手を震わせながらも一の黒三時に命中。才川は3回目の出場で、弓道日本一の称号を手にした。

▽入賞者コメント

●優勝Ⅱ才川義昭錬士六段（大分）

出場3回目で栄冠を勝ち取った。初出場は3年前。決勝進出を果たしたが、決勝で振るわなかった。それが今回は10射皆中。前年度優勝の細川と競った射詰を制した。「信じられないです。とても緊張しました」

本人の言う通り、皆中がかかった5回目の立や優勝をかけた射詰競射では馬手が震え、緊張していること

立順	氏名	所属	予選						予選合計			決勝																順位
			1 回目			2 回目						決勝																
			①	②	得点	①	②	得点	的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	的中	射詰	遠近 競射				
1	鈴木 康弘	群馬	○	○	760	○	×	753	3	1513	4	×	○	○	×	○	×	○	×	×	○	5			17			
2	細川 孝夫	福井	○	○	756	○	○	763	4	1519	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	×		2			
3	高橋 文彦	福島	○	×	744	○	○	769	3	1513	3	○	○	○	○	○	○	×	×	○	8		×	6				
4	野中 秀治	大阪	○	○	737	○	×	746	3	1483	11	×	×	○	○	○	×	○	○	×	○	6			12			
5	田中 成和	千葉	○	○	736	○	○	738	4	1474	16	○	○	○	×	○	×	×	○	×	×	5			17			
6	安倍 智	大分	○	○	752	○	○	762	4	1514	2	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	7			7			
7	黒住 一道	佐賀	○	○	738	○	○	751	4	1489	9	×	○	○	○	×	○	○	×	×	○	6			12			
8	山崎 正臣	高知	○	○	733	○	○	745	4	1478	13	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	8		○	4			
9	川名 修徳	宮崎	○	×	742	○	○	761	3	1503	6	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	7			7			
10	増淵 敦人	栃木	○	○	741	○	○	752	4	1493	8	×	×	○	×	○	○	○	×	×	○	5			17			
11	長須賀正身	神奈川	○	○	747	○	×	735	3	1482	12	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	7			7			
12	松岡 誠二	長崎	○	×	733	○	×	742	2	1475	15	○	×	○	×	○	×	×	○	○	○	6			12			
13	小原 裕幸	島根	○	○	731	○	×	741	3	1472	19	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	8		×	5			
14	土佐 正明	千葉	×	○	731	×	○	754	2	1485	10	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	8		○	3			
15	佐藤 俊彦	長崎	×	○	727	○	×	744	2	1471	20	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	2			20			
16	佐藤 史成	青森	○	×	741	○	○	764	3	1505	5	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○	7			7			
17	田中 正晃	熊本	×	○	725	○	○	749	3	1474	17	×	○	○	×	○	○	×	○	○	×	6			12			
18	才川 義昭	大分	○	○	729	○	○	748	4	1477	14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	○		1			
19	多湖 賢治	三重	×	○	739	○	○	761	3	1500	7	×	○	○	×	○	×	○	×	○	○	6			12			
20	吉澤 喜芳	埼玉	○	×	720	○	○	752	3	1472	18	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	7			7			

が容易に窺い知れた。

「引分もいつもと違う感覚でした。しかし、私は入賞歴もないですし、失うものはないので、『なるようになれ』と気持ち吹っ切れました」

現在37歳。地元・鹿児島県の中学校で弓道を始め、第2回全日本少年武道（弓道）錬成大会に出場。高校1年のときにインターハイで団体優勝を果たした。しかし、個人でのタイトルは今回が初めてとなった。

高校卒業後に就職。勤務地は大分市だった。

「まったく知らない土地で、会社の人以外知りませんでした。交流を求めて弓道場に通い始めました」

テレビ局勤めのため、勤務時間が不安定だが、週に2、3回は道場に通っている。

「通い始めた頃は、やはり中りを意識した稽古をしていましたが、今は

だいぶ変わってきました。というのは、体配は奥が深いと感じるようになってきたからです。先生方の境地に少しでも近づけるように精進したいと思っています」

選手権者となって来年の出場権を確保。意気込みを聞いた。

「錬士六段が守りに入るわけにはいきません。頑張ります」

●準優勝・最高得点賞Ⅱ

細川孝夫教士七段（福井）

前年度優勝者として大会に臨み、予選では最高得点を獲得。勢いそのままに決勝も10射皆中したが、射詰の1本目で失中して、連覇の夢が断たれた。

「決勝では思う通り引くことができました。連覇のことは意識せずにやりました。というのは、過去を振り返ってみますと、まずあり得ないことですから。射詰は力が尽きました。ああいう一本を失くすように稽古していきたいと思います。ちよつとたんたんと引きすぎましたね。離すまで伸び切らなくてはいいけません。あれが実力です。来年は今年以上の得点をいただけるような射を目指します」



優勝＝才川義昭錬士六段



（写真右上）3位Ⅱ土佐正明教士七段
（写真上）4位Ⅱ山崎正臣錬士六段
（写真右）5位Ⅱ小原裕幸錬士五段



準優勝・最高得点賞＝細川孝夫教士七段

●3位Ⅱ土佐正明教士七段（千葉）

今回20回目の出場で最高位となる3位となった。

「最後と思って出場しました。予選は思いどおりにいきませんでした。決勝も少し力んでしまいました。が、運良く3位という成績で有終の美を飾れました。自分にとって最高の結果になったと思います」

●4位Ⅱ山崎正臣錬士六段（高知）

今回、初めて決勝に進出して入賞を果たした。

「朝は調子良く感じましたが、緊張のせいか、段々と硬くなつて離れなくなつてきたのを感じていました。最後の遠近は入って良かったです。初めてこういう場でチャレンジできて入賞できてとても嬉しいですよ」

●5位Ⅱ小原裕幸錬士五段（島根）

28歳の若手ながら、決勝進出を果たした。

「決勝は今まで味わったことのない独特の雰囲気でした。射の内容はまだまだですが、しっかりと楽しめました。5位入賞は充分過ぎる結果だと思います。内容をもっと高め、予選でもう少し上位を狙いたいです」

■女子（21～23日）

21日に開会式、22日に予選が行われた。

昨年最高得点賞の藤野小百合（福岡）が齋藤往子（東京）を3点差で振り切つて、2年連続の受賞となった。昨年優勝の月輪由紀子（福井）は0中で予選敗退となった。

23日は時折小雨の落ちる中での決勝となった。4回目を終えて皆中者はなし。7中が山本あけみ（福井）、高井幸子（福島）、齋藤、山田直美（大阪）の4名。それを6中の中崎千恵子（広島）、久保川富美子（北海道）、星登喜枝（宮城）、古屋順子（福岡）、伊藤紀美子（三重）の5名が追った。

最終回で高井と齋藤が皆中し、9中の2名による射詰による優勝者が決められることとなった。また、7中の中崎、久保川、古屋、伊藤、小澤幸子（新潟）により5位決定の遠近射が行われ、最初に引いた中崎が早々に中白に詰めて勝負を決めた。8中の山本、山田による3、4位決定の遠近射は山田に軍配が上がつた。

決勝射詰、立順は高井、齋藤の順。1、2本目は両者とも的に快音



雨の中行われた決勝射詰（左＝高井幸子教士七段、右＝齋藤往子教士七段）

を響かせ、勝敗の行方は3本目に。先に引いた高井の矢は惜しくも的を捉えられず。決めれば優勝の齋藤の矢は、三の黒一時になんとか入り、5年ぶり4度目の優勝を決めた。

▽入賞者コメント

●優勝Ⅱ齋藤往子教士七段（東京）

出場21回。平成19年以来5年ぶり

4度目の優勝を果たす。

「手先に力が入ってしまったので引き抜けなかったなど、いろいろとできないところがありました。まだまだ勉強が足りません。右膝を痛めていて、体調もできませんでした。それでも一生懸命やれることはやろうと思って集中しました。」

最後の競射では、勝負が決まると



神宮参拝



雨天の中、多くの観客がつめかけた

十分承知していましたが、とにかく自分のやれることをやろうと思い、勝ち負けにこだわらない方向に心を切り替えました。弓道で一番大切なのは、心の持ち様だと思います。いかに自分のやるべきことに集中できるかが大切です。

今回はちょっと怪我をしていて、心技体の体が揃わなかったので、そこを整えて、来年また頑張りたいと思います」

●準優勝Ⅱ高井幸子教士七段(福島)

「手の内のことを考えて引きましたが、予選は今一つで、なんとか通っていたいたというのが実感です。ただ、一射一射確かめながら、日々研究してきたことは間違いじゃなかったのかなと思います。ただ、射詰の最後は馬手に力が入ってしまいました。それでも全体を振り返ると楽しく引けました。選手権で優勝することが目標ですので、優勝目指して頑張ります」

●3位Ⅱ山田直美教士六段(大阪)

一昨年の優勝者だが、昨年は予選落ちを味わった。

「気持ちをちゃんと作れなかったところがまだまだだと思いました。調

立順	氏名	所属	予選						予選合計			決勝														順位	
			1 回目			2 回目																					
			①	②	得点	①	②	得点	的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	的中	射詰	遠近競射			
1	黒田 和子	愛知	○	×	724	○	○	729	3	1453	16	×	×	○	○	×	○	○	×	×	○	5				13	
2	中崎千恵子	広島	○	○	734	○	○	720	4	1454	13	×	○	○	○	○	○	○	×	○	×	7				○	5
3	田中恵美子	福岡	○	○	746	○	×	728	3	1474	4	○	×	×	×	×	○	×	×	×	○	3					16
4	久保川富美子	北海道	○	×	727	×	○	720	2	1447	20	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	7				×	6
5	星 登喜枝	宮城	○	○	736	○	×	720	3	1456	11	○	×	○	○	○	×	○	○	×	×	6					10
6	山本あけみ	福井	×	○	720	○	○	739	3	1459	8	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	8				×	4
7	藤野小百合	福岡	○	○	746	○	○	747	4	1493	1	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	3					16
8	高井 幸子	福島	×	○	731	○	×	723	2	1454	14	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	9	○	○	×		2
9	佐野 弥生	山梨	○	×	726	○	○	736	3	1462	7	×	×	○	○	○	×	○	×	×	○	5					13
10	佐竹 明美	北海道	○	○	741	○	○	729	4	1470	5	×	○	×	×	×	○	○	○	×	○	5					13
11	高井 明美	三重	○	○	736	×	○	721	3	1457	9	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×	3					16
12	有澤 千秋	鳥取	×	○	727	○	○	730	3	1457	10	○	○	○	×	○	○	×	×	○	×	6					10
13	齋藤 往子	東京	○	○	746	○	○	744	4	1490	2	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	9	○	○	○		1
14	亀山 節子	大分	○	○	731	○	×	720	3	1451	18	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	2					19
15	大木 緑	神奈川	×	○	726	○	○	722	3	1448	19	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	2					19
16	渡邊 百世	愛知	○	×	723	○	○	733	3	1456	12	×	○	×	○	×	○	×	○	○	○	6					10
17	古屋 順子	福岡	○	×	721	×	○	714	2	1454	15	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	7				○	6
18	伊藤紀美子	三重	○	○	741	○	○	736	4	1477	3	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	7				○	6
19	山田 直美	大阪	○	○	744	○	×	724	3	1468	6	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	8				○	3
20	小澤 幸子	新潟	○	○	730	○	○	722	4	1452	17	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	7				×	6



優勝＝齋藤住子教士七段



3位＝山田直美教士六段



4位＝山本あけみ錬士六段

子がよくない中、調整できなかったのもまだまだです。雨も気にしてしまいましたが。決勝でも波が出ないような弓が引けるように頑張ります」
●4位Ⅱ山本あけみ錬士六段(福井)
 3年ぶりの入賞を果たした。

「皆様のお蔭でいい風にやらせていただき、調子良く臨めました。成績も前回入賞したときの5位から一つ上がりました。次に繋がる結果で、有り難く受け止めています。次も是非出場したいと思っています」



5位＝中崎千恵子教士六段

●5位Ⅱ中崎千恵子教士六段(広島)
 今回が初入賞となった。
 「決勝の初回は緊張して足が震えました。しかしそれ以降は練習と同じようにという気持ちで引いたので、落ち着いて引けたと思いました。今

回は錚々たるメンバーの中で引けたのでそれだけで幸せでした」
●最高得点賞Ⅱ
藤野小百合教士六段(福岡)
 最高得点賞は2年連続となった。
 「未熟者ですので身が引き締まります。昨年この賞をいただいて、弓道ができる環境や周りの方々への感謝をあらためて実感しました。予選では一本一本集中して引けました。決勝は昨年在4中だったので、それを越えたいと思ったのですが…。来年も頑張ります」



最高得点賞＝藤野小百合教士六段

今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村民雄

好評発売中

今、なぜ
武道か

文化と伝統を問う
中村民雄

日本武道館

目次

第1章 今、なぜ武道か

- 1 今、なぜ武道か
- 2 武道の普遍性を問う
- 3 たたかひの原理
- 4 武と武道
- 5 格技と武道
- 6 武道教育
- 7 道と人間形成
- 8 武道の近代化
- 9 武道の伝統
- 10 わざの伝承
- 11 型と競技
- 12 稽古と練習(トレーニング)

第2章 武道の身体技法

- 1 自然体
- 2 すり足とナンバ
- 3 正坐
- 4 蹲踞
- 5 礼
- 6 坐礼
- 7 右と左
- 8 中
- 9 間と間合
- 10 死に太刀
- 11 掛け声
- 12 勝負観

第3章 武道の施設・用具

- 1 道場
- 2 武徳殿
- 3 柔道場と畳
- 4 弓道場
- 5 土俵
- 6 木刀と袋しない
- 7 竹刀
- 8 タンボ槍となぎなた
- 9 槍術用の防具
- 10 剣術用の防具
- 11 稽古着と稽古袴
- 12 柔道衣と色

第4章 武道の制度・技の体系

- 1 試合
- 2 審判
- 3 段位制
- 4 称号
- 5 乱捕
- 6 剣術六十八手
- 7 柔道の技の体系
- 8 剣道の技の体系
- 9 弓道の技の体系
- 10 なぎなたの技の体系

第5章 武道の再生に向けて

- 1 「伝統的な行動の仕方」とは
- 2 武道の再生に向けて

(四六判・上製・370頁)

知っているようでよく説明できない武道のいろいろな事柄を、古今の豊富な資料をもとにわかりやすく説いた、武道事典ともなる一書。

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

武道の全容をこの一冊に集大成！

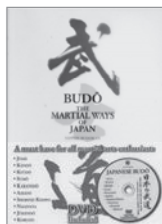


日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

『日本の武道』の英文版(DVD付)



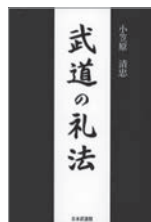
BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

（四六判・上製・320頁）

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・334頁）

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

（四六判・上製・348頁）

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

（四六判・上製・272頁）

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

武道界の先達の熱きメッセージ



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会

鹿島神宮で 古武道 33 流派が奉納演武



鹿島新當流剣術の演武

第3回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（主催 日本武道館、日本古武道協会）は、10月7日に、全国から古武道33流派138名が集まり、茨城県鹿嶋市の鹿島神宮で開かれた。

当日は、9時30分に各流派の代表者が昇殿参拝を行った。記念撮影の後、10時に開会式が始まった。

三藤芳生日本武道館理事・事務局長の開会宣言、国歌斉唱が行われ、松永光日本武道館会長（日本古武道協会会長）が挨拶に立った。

「武の神様を祀る鹿島神宮で、日本の武道の源流である古武道の演武大会を開くことは大変意義のあることです。演武者の方々には、日頃の稽古で身につけた技を、余す所なく披露し、大きな感激を与えていただきたいと思います」

次に、内田俊郎鹿嶋市長が祝辞を述べた。

「昨年の大震災以来、鹿嶋市も被災地として、復興に当たっております。そのような中、昨年、皆様の演武によって、我々市民は大いに力づけていただきました。」

本年も、この舞台の上で、我々市



鹿島則良鹿島神宮宮司



内田俊郎鹿嶋市長



松永光日本武道館会長



昇殿参拝の様子



民に古武道の真髓をお伝えいただけ
れば、大変ありがたく思います」
その後、鹿島則良鹿島神宮宮司が
「昨年、この鹿島神宮において、126
年ぶりに『常陸帯』という能をいた
しました。その中で、鹿島の神様が
『私はこの国が始まって以来、この
地に鎮まって、今でも皆のことを守
っているんだよ』と述べられました。
本日は、日頃鍛えた技をご披露
し、鹿島の神様の力をいただき、こ
の国を皆で守っていこうと思ってい
ます。おいでいただき、誠にありが
とうございました」と、歓迎の言葉
を述べた。そして祝電披露の後、奉
納演武へと移った。
各流派の演武は社殿前の特設演武
場で行われた。観客席は、カメラを
手にした古武道愛好者や観光客で埋
まり、全33流派が代々伝わる伝統の
技と心を披露した。途中小雨が降る
場面もあったが、傘を差しながら熱
心に演武を見る観客も多かった。
午後2時過ぎ、全ての演武が終わ
り、山田重夫日本古武道協合理事・
事務局長が閉会宣言を行った。観客
の拍手の中、演武会は盛会裡に幕を
閉じた。

総勢 138 名が 奉納演武



天真正伝香取神道流剣術



北辰一刀流剣術



心形刀流剣術



鞍馬流剣術



伯耆流居合術



円心流居合据物斬剣法



関口流抜刀術



無雙直傳英信流居合術

気楽流柔術



長谷川流和術



天神真楊流柔術



心月無想柳流柔術



大東流合気柔術



大東流合気柔術 琢磨会



柳生心眼流甲冑兵法



荒木流軍用小具足



尾張貫流槍術





立身流兵法



天道流雑刀術



神道無念流剣術

古武道の技と心を武神に奉ず



田宮流居合術



示現流兵法剣術



神道夢想流杖術



金硬流唐手沖縄古武術



琉球古武術



沖縄剛柔流武術



琉球王家秘伝本部御殿手



鐘捲流抜刀術



荒木流拳法



佐分利流槍術



直心影流薙刀術



宝蔵院流高田派槍術

術技交流研修会 懇親会



山田重夫日本古武道
協会理事・事務局長



三藤芳生日本武道館
理事・事務局長



東俊二郎
鹿島神宮権宮司



白井日出男日本武道館理事長



術技交流研修会の様子

演武大会前日には、鹿島神宮武徳殿で、午後3時30分より、術技交流研修会が催された。その後、鹿島神宮参道脇の宴会場「新仲家」で、午後6時30分より懇親会が開かれた。

■術技交流研修会

始めに三藤芳生日本武道館理事・事務局長が主催者挨拶を行った。次に東俊二郎鹿島神宮権宮司が祝辞を述べた。その後、吉川英夫日本武道館振興部長が全体説明を行った。

道場は2つに区切られ、各流派が翌日の演武内容を確認した。それぞれの演武者は、順番を待つ間、他流派の技術や演武の進め方を参考にしようとして、熱心に見入った。

午後5時30分、山田重夫日本古武道協会理事・事務局長の閉会宣言で、術技交流研修会は終了となった。

■懇親会

会場には18の丸テーブルが設けられ、各演武者、大会事務局、地元協力団体等が、それぞれ決められた席に着いた。

始めに白井日出男日本武道館理事長が主催者を代表して挨拶を行った。次に内田俊郎鹿嶋市長の祝辞があり、続いて、東俊二郎鹿島神宮権宮司が歓迎の言葉を述べた。

その後、鹿島神宮敬神婦人ともえ会による清興舞踊「日本の祈り」が披露された。



山田重夫日本古武道協会理事・事務局長の発声で、万歳三唱

進行は鏡開きへと移り、白井理事長、内田市長、東権宮司、吉川常隆鹿島新當流宗家、三藤芳生日本武道館理事・事務局長の5名が掛矢を持って、鹿島神宮提供の鏡樽を打ち開いた。そして、三藤理事・事務局長の発声で乾杯が行われた。

歓談の中、演武者・関係者が壇に上がり、一人ずつ抱負を述べた。最後は山田重夫日本古武道協会理事・事務局長が中締め挨拶を行い、万歳三唱で、お開きとなった。

塚原ト伝ツアー



ト伝の墓の前で記念撮影。左・一箭宗家、右・門弟の西本さん。

真ん中はボランティアでガイドを行っている五喜田敏子さん。ト伝の修業のエピソードに加え、近くにある古墳や寺院、霞ヶ浦の鯉養殖業についてなど、地元のことを親切に紹介してくれました。

演武大会前日には、地元縁の剣豪、塚原ト伝の墓を見学する「塚原ト伝ツアー」が行われた。鹿嶋市の観光協会と商工会の協力により、第1回大会から組まれているツアーで、ト伝の墓のほか、地元の観光スポットを紹介している。参加費は無料で、今年は鹿島神宮駅からワゴン車3台を使い、希望者12名を案内した。

宝蔵院流高田派槍術の一箭順三宗家とその門弟の西本昌永さんは、午後1時からのツアーに参加。ト伝の墓を前にした一箭宗家は、「せっかく鹿島の地に來たので、ト伝の墓参りをしたいと思いました。ト伝の修行の苦勞を聞いて自分の修行と照らし合わせ、励みになりたいです」と語った。

出場流派・演武者(数字は演武順)

- ① 鹿島新當流剣術(茨城) 〓 豊屋敏治、岡見安宏、横尾廣美、原正俊、今井淳也
- ② 心月無想柳流柔術(兵庫) 〓 桑波田秀祐、堤毅、奥村宗一郎
- ③ 関口流抜刀術(熊本) 〓 宗家・米原龜生、本庄弘幸、中山洋一、林憲一、上原征二
- ④ 沖繩剛柔流武術(沖縄) 〓 寺内一男、戸田雄紀、若林義昌、村上実、手塚泰史
- ⑤ 示現流兵法剣術(鹿児島) 〓 藤村亨、東郷重賢、東郷重徳、下津浩一、末吉雄三朗、ブラッドショー・アレキサンダー
- ⑥ 大東流合気柔術 琢磨会(大阪) 〓 師範・川辺武史、西谷修、阪谷一広、芝田彰祐、山本敦史
- ⑦ 宝蔵院流高田派槍術(奈良) 〓 宗家・一箭順三、西本昌永、松井典夫
- ⑧ 琉球王家秘伝本部御殿手(大阪) 〓 池田光生、池田哲生、市川英美、増田千尋、原祥、アロン・メルダール
- ⑨ 柳生心眼流甲冑兵法(岩手) 〓 星憲明、二階堂敏朗、古澤伸一
- ⑩ 神道夢想流杖術(福岡) 〓 古川瞬也、藤崎興朗
- ⑪ 気楽流柔術(群馬) 〓 宗家・飯寫文夫、川島輝之、船田清
- ⑫ 鐘捲流抜刀術(岡山) 〓 宗家・檀原正士、檀原弘之、俣野勝美、河野広司、島田和行
- ⑬ 佐分利流槍術(広島) 〓 宗家・川瀬一道、前原一教、北村賢一
- ⑭ 天道流薙刀術(京都) 〓 木村恭子、佐藤孝子
- ⑮ 心形刀流剣術(三重) 〓 代表・小林強、佐脇慎也
- ⑯ 荒木流拳法(群馬) 〓 宗家・菊池邦光、菊池京一、小暮文明、西川二郎、鈴木荒一
- ⑰ 伯耆流居合術(兵庫) 〓 代表・大窪敏明、吉岡勝子、川上作男、藤田春行
- ⑱ 天神真楊流柔術(埼玉) 〓 宗家・柴田孝一、板津和彦、柴田俊充、松浦富士雄、水野真、栗原正幸
- ⑲ 荒木流軍用小具足(埼玉) 〓 豊田良樹、山内秀記、千葉明、坂本浩一、片桐克彦
- ⑳ 円心流居合据物斬剣法(大阪) 〓 宗家代行・山田恭史、濱先康彰、高槻幸雄、北山吉昭
- ㉑ 神道無念流剣術(東京) 〓 小川武、萩崎昭、土屋正則
- ㉒ 金硬流唐手沖繩古武術(沖縄) 〓 範士・早坂義文、早坂ゆかり、江幡妙子
- ㉓ 大東流合気柔術(東京) 〓 近藤昌之、天野鎮夫、佐藤嵩司、石井勇一、トルーデル・マーク、池嶋勝則
- ㉔ 尾張貫流槍術(愛知) 〓 横地浩紀、森治紀、神原会弥
- ㉕ 鞍馬流剣術(東京) 〓 宗家・柴田章雄、東山誠、松尾和夫、吉田稷寛、松井康一、水野正太郎
- ㉖ 琉球古武術(東京) 〓 遠山衛、菅田潔、佐藤雅一、高橋淳也、梅田寛
- ㉗ 直心影流薙刀術(奈良) 〓 関根恵児、藤井靖子、伊原啓子、今田たけ子
- ㉘ 立身流兵法(千葉) 〓 宗家・加藤紘、吉田龍三郎、加藤敦、林一夫、鈴木美智子、梅谷咲太郎
- ㉙ 無雙直傳英信流居合術(東京) 〓 師範・藤井勝子、小島恵子、尾形明夫、中田博久
- ㊳ 長谷川流和術(埼玉) 〓 宗家・桑原巡、倉田勝己、中前裕治、逸見彰一
- ㊴ 北辰一刀流剣術(茨城) 〓 代表・小澤智、上田忠夫
- ㊵ 田宮流居合術(神奈川) 〓 代表・妻木達夫、清水新也、水野好秀、田中正彦、若命龍美、山口隆一
- ㊶ 天真正伝香取神道流剣術(千葉) 〓 京増重利、成毛弘、土井研二、吉岡政彦



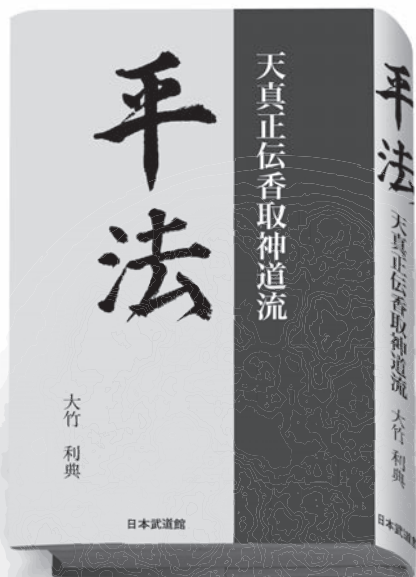
好評発売中

平法

天真正伝香取神道流 師範
大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

- 序 章 香取神宮御由緒
 - 第一章 歴史篇
 - 第一節 経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
 - 第二章 修行篇
 - 第一節 入門
 - 第二節 林先生に師事
 - 第三節 香取神道流最初の異国の門弟
 - 第四節 流祖生誕六百年記念祭
 - 第三章 技術篇
 - 第一節 剣術
 - 第二節 居合術
 - 第三節 棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
 - 第四節 柔術
 - 第五節 忍術
 - 第四章 軍学兵法篇
 - 第一節 遁甲術
 - 第二節 刀剣と密教
 - 第五章 思想篇—全ての修行者へ
 - 第一節 修行者の心得
 - 第二節 兵法は平法なり
- 平和を願う偉大なる教え



◎ご注文はインターネット **Amazon.co.jp** にて。全国の書店でもご注文いただけます。
◎お急ぎの方は、下記お問い合わせ先にご連絡ください。**送料無料**で販売いたします。

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。



植芝守央道主による講習会の様子

国際合気道大会

世界73カ国1300名が 講習会に参加

第11回国際合気道大会（主催Ⅱ国際合気道連盟（IAF）、合気会）は、9月17日から24日の間、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された。

大会では、IAFの総会・会議、講習会（日程別掲）、国際演武大会が開かれた。

IAF理事会・会議は、17～22日に国際交流棟会議室で行われた。理事会では役員改選があり、ピーター・ゴールズベリ氏が理事長に再選された。また、4年後の次回大会を再び日本で開催すること等が決まった。

講習会は、18～22日に国際スポーツ棟で行われ、日本を含む73カ国、1300名（海外から600名、日本国内から700名）の修業者が参加し、5日間にわたって開かれた。

最終日、植芝守央道主の講習では、

●国際合気道連盟（IAF）

昭和51年、28カ国が集まって結成。現在は47カ国が加盟。大会は第3回（パリ）以降、4年ごとに開催している。

会長Ⅱ植芝守央道主、理事長Ⅱピーター・ゴールズベリ氏（英国）、副理事長Ⅱシヨーン・イアマン・マクルアイリ氏（アイルランド）、事務総長Ⅱ井沢敬氏。

参加者が道場を埋め尽くした。道主は、転換・入身・体さばきといった基本動作の重要性を述べ、入り身投げ、四方投げなどのポイントを解説・実践した。教えをいただくまたという機会とあり、参加者は、真剣な面持ちで指導を受けた。

講習会の後、午後7時より国際交流棟に場所を移し、約600名が参加して、さよならパーティーが開かれた。まず始めに、ピーター・ゴールズベ



さよならパーティーの様子



ピーター・ゴールズベリ
国際合気道連盟理事長



国際演武大会の様子



◇国際演武大会出場者のコメント (オランダ代表2名)

ピーター・ラヘルワルドさん(写真左)

「35年前に始めて、現在六段です。合気道の魅力は、心と体のバランスが良くなることです。今日の演武はとても上手く出来ました」

フランク・グルネンさん(写真右)

「合気道の素晴らしいところは、しっかりとした技を身につければ、体が小さな者でも大きな者を投げられることです。力だけではありません。何歳になっても続けられるし、続けるつもりです」

リIAF理事長が国際大会開催にあたり、各関係者に感謝の言葉を述べた。次に、植芝道主が「各国の合気道関係者が力を一つにしてくれたおかげで、充実した内容の講習会とな

りました。4年後にはさらに大きな輪が広がり、皆様と一緒にこの大会を開くことが出来るのを楽しみにしています」と挨拶した。

その後、新役員の紹介、磯山博本部師範の発声により乾杯が行われた。参加者は講習会の内容を振り返りながら、懇親を深めた。

国際演武大会は、23日に国際スポーツ棟で行われ、33カ国130名が参加した。国ごとに代表者が演武を行い、日頃鍛えた技を存分に披露した。

演武大会が終わり、これで大会行事の全てが終了(24日は、センター内宿泊者のチェックアウト日)。参加者は、合気道母国日本での様々な思い出を胸に、それぞれ帰国の途に就いた。

講習会日程

	9月18日	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日
9:30~10:30	植芝充央 本部道場長代行	栗林孝典 師範	堀井悦二 師範	小林幸光 師範	金澤 威 師範
11:00~12:00	澤田俊晴 師範	五十嵐和男 師範	岡本洋子 師範	M.ティンエ 師範	菅原 繁 師範
14:30~15:30	C.ティンエ 師範	T.スマイバート 師範	深草基弘 師範	菅沼守人 師範	横田愛明 師範
16:00~17:30	浅井勝昭 師範	山田嘉光 師範	磯山 博 師範	多田 宏 師範	植芝守央 道主
19:00~			多田 宏 師範の講義		



挨拶に立つ植芝守央道主

合気道本部道場創建 80 周年 合気会財団設立認可 70 周年記念祝賀会

合気道の発展を祝い、 関係者 1 9 0 0 名が参集

合気道本部道場創建80周年、合気会財団設立認可70周年記念祝賀会は、9月23日に東京・新宿区の京王プラザホテルで開催された。

祝賀会は午後1時に関係者約1900名を集めて開かれた。始めに、古藤昇司合気会常務理事が開会の辞を述べた。次に、植芝守央道主が、「今日の合気会があるのは」本部道場を中心に日々の稽古を怠ることなく、和合の心を大切に、地道に歩んできた結果だと確信しています。道と組織の融合をはかりながら、植芝盛平翁の創始した合気道の心を、正しく次世代へ継承させていくことを、お誓い申し上げます」と挨拶。続いて平野博文文部科学省大臣の祝辞を植芝充央本部道場長代行が代読した。

海部俊樹元内閣総理大臣が祝辞を述べた後、武道界を代表して、松永光日本武道館会長が「合気道は、勝ち負けを争わず、自らの心と体を鍛えることを目的とする素晴らしい武道です。国内外で益々発展されることを祈ります」と、お祝いの言葉を述べた。ほかに、亀井静香

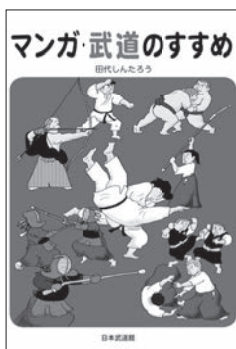
日本武道館の単行本

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

合気道は多田宏、磯山博、菅沼守人先生と、
東北大学学友会合気道部を掲載！



B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



亀井静香衆議院議員



海部俊樹元内閣総理大臣



松永光日本武道館会長



植芝充央
合気道本部道場長代行



フォルカー・シュタンツェル・
ドイツ連邦共和国特命全権大使



山谷えり子
参議院議員



多田宏本部師範の発声により乾杯

衆議院議員、フォルカー・シュタンツェル・ドイツ連邦共和国特命全権大使、山谷えり子参議院議員が壇にあり、祝辞を述べた。特に、合気道の経験がある海部、亀井、山谷の3氏は、稽古の思い出を感慨深い様子で語った。

続いて、来賓紹介（「合気会のひろば」に氏名掲載）、石原光義合気会専務理事への感謝状贈呈が行われた。その後、多田宏本部師範の発声による乾杯で祝宴が始まると、来場者は合気道の話に花を咲かせ、歓談に興じる様子が多くみられた。

午後3時、植芝充央合気道本部道場長代行が閉会の辞を述べ、祝賀会は盛会裡に幕を閉じた。

好評発売中

武道における身体と心

指導者必読！ 心身を一体的に鍛え高める武道人間学のすすめ。
本書は、「近世武芸書」に残された日本の伝統的心身論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の二書。



神戸学院大学教授 前林清和 著
(四六判・上製・370頁)

【目次】

- プロローグ 武道に学ぶホリスティックな身体
- 第一章 日本人の身体観の源流—中世—
 - 第一節・武士の覚悟／第二節・禅と悟り／第三節・能楽の稽古
- 第二章 武道の心
 - 第一節・不動心／第二節・武道の悟り／第三節・駆け引き／第四節・目付／第五節・瞑想
- 第三章 武道の気
 - 第一節・気とは何か／第二節・気の歴史と武士／第三節・勝負と気／第四節・天道と心気／第五節・静と気／第六節・達人と気
- 第四章 武道の技と心身
 - 第一節・武道の型／第二節・柳生の技／第三節・武蔵の技／第四節・竹刀打込剣術／第五節・心法重視の型剣術／第六節・柔よく剛を制す／第七節・矩／第八節・鍛錬
- 第五章 人をつくる武道
 - 第一節・現代剣道と人間形成／第三節・佐川派大東流の技と修行／第三節・身を処する／第四節・死と生



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



(B5判・236頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

第55回全日本実業団剣道大会

パナソニック（ES本社）が2年ぶり3度目の優勝



決勝中堅戦＝パナソニック・大亀（右）対東洋水産・青木

第55回全日本実業団剣道大会（主催Ⅱ全日本実業団剣道連盟）は9月17日、日本武道館で行われ、全国から過去最多に迫る325チームが出場し、実業団剣道日本一を争って熱戦が展開された。

決勝は一昨年優勝のパナソニック（ES本社）が、昨年優勝の東洋水産（本社）を2―1で降して2年ぶり3度目の優勝を遂げた。3位には、富士ゼロックス（本社）とNTTが入賞した。

試合は、5人制の団体戦で行われ、試合時間は、1回戦から準々決勝までが3分間、準決勝と決勝は4分間で、時間内に勝負が決しない場合は引き分けとした。チームの勝敗は、勝者数によって決せられ、勝者同数の場合は勝本数によって決し、更に同数の場合は、時間無制限による代表戦（二本勝負）で決した。



開会式

◇準決勝

東洋水産 3―2 富士ゼロックス
準決勝第一試合は、昨年優勝の東洋水産（本社）と、14年ぶりに準決勝に駒を進めた富士ゼロックス（本社）が対戦した。試合は、富士ゼロックスの先鋒・岩川と次鋒・住崎が共に一本勝ちで2連勝したものの、中堅戦からは、東洋水産（中堅・青木Ⅱ二本勝ち、副将・久木原Ⅱ一本



準決勝第1試合・大将戦＝東洋水産・下川（左）対富士ゼロックス・上原



準決勝第2試合・副将戦＝パナソニック・植田（左）対NTT・竹越

勝ち、大将・下川（二本勝ち）が3連勝し、3―2で決勝進出を決めた。
パナソニック 2―1 NTT
準決勝第二試合は、一昨年優勝（当時・パナソニック電工〔本社〕）のパナソニック（ES本社）と、NT

Tが対戦した。先鋒戦、パナソニック・高（こう）とNTT・阿南（あな）は引き分ける。次鋒戦と中堅戦はパナソニック（次鋒・中野（なみの）一本勝ち、中堅・大亀（おおかめ）二本勝ち）が連勝してリードする。そして、パナソニック・植田（うえ）とNT

T・竹越（たけごし）の副将戦が引き分けに終わると、パナソニックの勝利が決まった。大将戦は、NTT・下村（しもむら）が二本勝ちで意地を見せたが、2―1でパナソニックが勝ち上がった。

◇決勝

パナソニック 2―1 東洋水産
先鋒戦は、開始30秒、東洋水産・庄司（しむら）が面（おもて）で入ったところをパナソニック・高（こう）が出小手（でこて）を決めて一本勝ち。しかし、次鋒戦では、序盤、小手を狙って飛び込んだきたパナソニック・中野（なみの）に、東洋水産・石川（いしかわ）が小手を決め、一本勝ちで勝敗を五分に戻す。

中堅戦、パナソニック・大亀（おおかめ）と東洋水産・青木（あおき）の対戦は、互いに譲らず一進一退の攻防が続いたが、中盤、青木の手元（てもと）が拳（こぶし）がった瞬間（しゅんかん）を捉えて、飛び込んだ大亀の小手（こて）が決まる。大亀が一本勝ちを収めた。

副将戦は、パナソニック・植田（うえ）が近間の間合（つばぜ）いで鍔（つば）迫り合い（せまわり）を続け、試合をコントロールする。隙（ひま）を見せない植田（うえ）に対し、東洋水産・久木原（くきばら）は攻め切れずにそのまま試合終了。パナソニックが2―1とリードのまま





決勝先鋒戦＝パナソニック・高(右)が東洋水産・庄司から小手を奪って先制する

また大將戦を迎える。
大將戦、引き分け以上で優勝が決まるパナソニック・勝見と、勝たなければ後のない東洋水産・下川は、共に28歳。試合は、一足一刀の間合勝を達成した。



決勝次鋒戦＝東洋水産・石川(左)が1勝をあげる

◆優勝Ⅱ酒井順也監督



まだ37歳と若い酒井氏は、一昨年に優勝した後に監督に就任。正直、優勝できてホッとしました、と安堵の表情を見せる。

「ここ1、2カ月は、特に、真っ直ぐ構えて最後まで手元を挙げないという、基本を崩さないことにこだわって練習しました。通常の練習時間は週3日ですが、皆、自然と朝練も始めました。今日は、打たれても構わないから、チームを信じて自分た

◆最優秀選手Ⅱ大亀健太選手 (パナソニックES本社)

「調子は悪くありませんでした。前が負けたら自分が取り返そうと思って、一本を大事にやりました。来年へ向けて、また一から頑張っていきたいと思います」
職場での立場を聞いてみた。
「職場や剣道部では、宴会部長的な盛り上げ役に徹しています。今日もそういう立場でできたのかなと思います」



最優秀選手に選ばれ、日本武道館賞を授与される大亀健太選手

好評発売中

小笠原 清忠

(弓馬術礼法小笠原教場
三十一世宗家)

著

武道の礼法

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が直々に指南する、武道関係者必読の一書。



武道の礼法

四六判・上製・278頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>

ちの力を出し切ろうという思いで戦いました。来年もまた一つ一つ積み上げて、大会に臨みたいと思います」
最優秀選手に選ばれた大亀選手について聞いてみる。
「去年まで中堅だった滝崎が海外赴任で異動になりました。新たに高も入ってきましたので、先鋒であった大亀を中堅にしましたが、ポイントゲッターに成長してくれました」
今年の2月に行われた「全日本実業団女子剣道大会」で女子チームも優勝を果たした。今年はアベックで優勝しようと女子部員からのバックアップもかなりあったとのこと。剣道部の雰囲気の良いことも優勝に繋がったのだろう。



優勝＝パナソニック（ES本社）チーム



2位＝東洋水産（本社）チーム

「大会結果」

優勝Ⅱパナソニック（ES本社）

2位Ⅱ東洋水産（本社）

3位Ⅱ富士ゼロックス（本社）、

NTT

敢闘賞Ⅱ西日本シティ銀行（福岡支店）、三千和商工、富士ゼロックス東京（本社）、日通商事（本社）

心技体 人を育てる総合誌

月刊 武道



日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる
剣道修錬を集大成した
本格的剣道修行論

好評発売中!



《写真提供：剣道時代》

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

（四六判・上製・268頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）

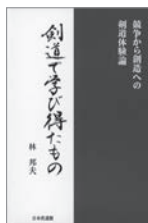


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

（四六判・上製・298頁）

男子6階級で 新チャンピオン



90kg級＝下和田（手前）対春山

全日本学生柔道体重別選手権大会

全日本学生柔道体重別選手権大会（男子31回・女子28回）が9月29日・30日の2日間、日本武道館で開催され、各階級の学生日本一を目指して熱戦が繰り広げられた。

男子

▽60kg級

前回優勝の木戸慎二（日本体育）が決勝に進出し、同学の後輩・志々目徹と対戦。試合は延長に突入するも勝敗が決まらず、判定の結果3対0で木戸が連覇を決めた。

▽66kg級

決勝は小寺将史（筑波）と前回2位の高上智史（日本体育）の対戦となった。終盤、小寺が背負投で技有を奪って優勢勝、初優勝に輝いた。

▽73kg級

決勝では前回2位の太田慶一（東海）と土井健史（天理）が対戦した。太田が中盤に内股で有効を奪う。その後は両者ポイントなく、太田が初優勝を手にした。

▽81kg級

決勝は前回3位の片岡仁（日本）対大辻康太（埼玉）となった。前半、片岡に2回の指導で、大辻がポイントでリードする。中盤、大辻は背負投で技有を奪ってポイントを重ねる。その後、大辻も指導を2回取られるが、逃げ切って初優勝を決めた。

◎初の全国タイトル

大辻康太選手（埼玉）



「全国大会での優勝はこれが初めてです。大学生活最後ということもあり、また、主将として、埼玉大でも全国制覇を狙えることを後輩に示したいという気持ちが強かったです。この結果に繋がったと思います。埼玉大が、今回の1回だけではなく何回も全国で活躍できるよ

う、これからも頑張りたいです」



73kg級＝太田（上）対土井



66kg級＝小寺（下）対高上



81kg級＝大辻（手前）対片岡



100kg超級＝原沢（手前）対豊田



60kg級＝木戸（奥）対志々目



100kg級＝
羽沢（右）対浅沼

▽90kg級

2連覇中の春山友紀（国士館）が今年も決勝に勝ち進み、前回3位の下和田翔平（日本体育）と対戦。激しい攻防が続く中、下和田の的外刈が決まって一本、初優勝となった。

◎3連覇を阻止して初優勝

下和田翔平選手（日本体育）



「一昨年は春山選手に準決勝で負けました。技のキレなどには

あまり自信がないので、今回は身長差（約20cm）を活かして闘いました。自分より背の低い相手にとつて闘いづらいよう、上から攻めるということを意識しました」

▽100kg級

決勝は羽沢頼誠対浅沼拓海の国士館同士の対戦となった。両者決め手に欠け、試合は延長戦にもつれ込む。延長開始30秒、浅沼が内股を仕掛けると、羽沢が返して有効を奪い、初優勝を決めた。

▽100kg超級

原沢久喜（日本）と豊田竜太（東

海）が決勝で対戦した。原沢はまず内股で技有を奪うと、さらに続けて小外掛で技有を奪い、合わせて一本。初優勝に輝いた。

【男子結果】

▽60kg級①木戸慎二（日本体育）②志々目徹（日本体育）③澤田涼（国士館）、宮本拓実（国士館）

▽66kg級①小寺将史（筑波）②高上智史（日本体育）③徳田慎之介（帝京科学）、清水健登（山梨学院）

▽73kg級①太田慶一（東海）②土井健史（天理）③中村剛教（山梨学院）、大野将平（天理）

▽81kg級①大辻康太（埼玉）②片岡仁（日本）③安田知史（天理）、宇都宮光樹（筑波）

▽90kg級①下和田翔平（日本体育）②春山友紀（国士館）③北野裕一（國學院）、穴井航史（東海）

▽100kg級①羽沢頼誠（国士館）②浅沼拓海（国士館）③制野龍太郎（日本）、小林督之（天理）

▽100kg超級①原沢久喜（日本）②豊田竜太（東海）③兒玉雄一（明治）、上杉亮太（国士館）

女子軽量級は山梨学院が独占



52kg級＝加賀谷（奥）対黒木



57kg級＝リン（手前）対武井



48kg級＝山崎（奥）対塚原

女子

▽48kg級

決勝では、前回2位の塚原唯有（環太平洋）と山崎珠美（山梨学院）が対戦した。中盤、山崎が小外掛を決めて一本、初出場にして優勝を手にした。

◎初出場で優勝

山崎珠美選手（山梨学院）



「全日本ジュニアで負けて悔しい思いをしていたので、今回は絶対に勝つということしか考えていませんでした。大学生の大会は初めてだったので、挑戦者の気持ちで一試合一試合を闘いました。山梨学院には本当に素晴らしい先輩や仲間がたくさんいるので、一緒に頑張りたいです」

▽52kg級

3年前の優勝者・加賀谷千保（山梨学院）が決勝に進出し、黒木美晴（環太平洋）と対戦した。加賀谷が終盤に内股で有効を奪い、優勝。3年ぶり2回目の優勝となった。

◎3年ぶりに頂点へ

加賀谷千保選手（山梨学院）



「監督からも、4年で最後だから死ぬ気でいけと言われました。これからは、海外でも勝てるような、安定した力の選手を目指します」

▽57kg級

決勝はリン・チーリン（山梨学院）対武井嘉恵（筑波）、前回3位同士の対戦となった。中盤、リンが払腰で有効。武井はポイントを奪えず、リンが優勢勝して、初優勝を飾った。

▽63kg級

決勝では、前回2位の太田晴奈（淑徳）と大川愛（天理）が対戦した。試合開始直後に太田が内股を決めて一本。初優勝に輝いた。

◎開始直後に見事な一本勝

太田晴奈選手（淑徳）



「前回優勝者の安松春香選手が決勝に上がらなかっただったので、こ



63kg級＝太田（奥）対大川



78kg級＝下田（上）対西田



70kg級＝
ヌンイラ（右）対高橋



78kg級超＝山部（上）対橋口

のチャンスに優勝するしかないと思
いました。決勝では、持ったら得意
な内股を掛けようと思っていたの
で、うまく決まって嬉しく思います。
講道館杯に向けて、上位を目指して
頑張っていきたいです」

▽70kg級

決勝はヌンイラ華蓮対高橋ルイ
の、環太平洋の同級生同士の対戦と
なった。互角の攻防が続き、延長戦
でも勝敗が決せず判定となり、3対
0でヌンイラが高橋を破って連覇を
決めた。

▽78kg級

決勝は下田美紗季（淑徳）対西田
香穂（山梨学院）となった。下田が
払腰で有効を奪う。さらに下田は再
び払腰を決めて一本勝ち、初優勝を
飾った。

▽78kg超級

全日本チャンピオンである山部佳
苗（山梨学院）が、前回に続き決勝
に進出。対するは橋口ななみ（近畿）。
中盤、山部が橋口を返し、そのまま
抑え込んで一本。連覇を果たした。

【女子結果】

- ▽48kg級①山崎珠美（山梨学院）②塚原唯有（環太平洋）③十田美里（近畿）、森崎由理江（鹿屋体育）
- ▽52kg級①加賀谷千保（山梨学院）②黒木美晴（環太平洋）③谷本和（環太平洋）、五味奈津実（仙台）
- ▽57kg級①リン・チーリン（山梨学院）②武井嘉恵（筑波）③金子瑛美（埼玉）、長野千瑛（日本）
- ▽63kg級①太田晴奈（淑徳）②大川愛（天理）③藤田ひろみ（日本体育）、黒木和世（環太平洋）
- ▽70kg級①ヌンイラ華蓮（環太平洋）②高橋ルイ（環太平洋）③川戸郁香（淑徳）、唐鎌千鶴（帝京）
- ▽78kg級①下田美紗季（淑徳）②西田香穂（山梨学院）③日高美沙希（大阪体育）、重永聡美（広島）
- ▽78kg超級①山部佳苗（山梨学院）②橋口ななみ（近畿）③畑村亜希（帝京）、町純香（山梨学院）



待望の 単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館 図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点

欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門

新大陸へ派遣第2号

異種格闘技に生きた前田光世

英国柔道の基礎―武道会

武道会を訪れた嘉納と高弟会田

小泉が語る英国柔道史

仏蘭西への道

メトード・カワイシとは何か

駐仏日本国大使 杉村陽太郎

続々と仏蘭西へ

海外より見た柔道―独逸通信

東洋への進出

異文化理解の容易なさ

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜

嘉納逝き連盟成らず

欧州から国際柔道連盟の結成

講道館長、国際柔道連会長に就任

世界柔道選手権大会開催

東京五輪招致成功

東京五輪と正式種目柔道

パリの仇

体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進

変わり行く柔道

不易流行



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

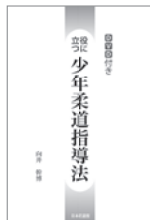


BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

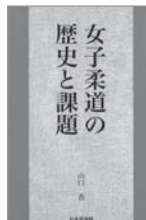


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）